

緑から読み解く都市の持続的文脈

— 名古屋市の歴史的町並みに現れる緑への注目 —

齊藤由香 (金城学院大)

長谷川泰洋 (なごや生物多様性センター)

竹中克行 (愛知県立大)

研究目的

■目的

都市の持続的文脈のうち、**緑**に着目し、

- ①持続性のある空間的パターンをなす緑の立ち現れ方を明らかにする。
- ②パターンを持続させている要因を考察する。

■対象

名古屋市の歴史的町並み「**白壁**」地区

*歴史的環境＝長きにわたる人と土地との
かかわり合いが刻印された場所。



名古屋市における町並み保全地区と白壁エリアの位置（名古屋市の資料をもとに筆者作成）

対象地域

■ 白壁地区（名古屋市東区）

- ・ 名古屋城下町における武家地（尾張藩の中級武士の屋敷地）
- ・ 明治期，輸出用陶磁器産業の発展。
- ・ 大正・昭和期以降，財界人や企業家の邸宅が建ち並ぶ（近代建築）。
- ・ 1985年，名古屋市により「**白壁・主税・榑木町並み保全地区**」に指定。
- ・ まっすぐな街路，連続する塀・門，庭木の緑を特徴とする景観。
- ・ 現在は閑静な住宅地，一部に事業所。



中級武士の屋敷地としての白壁

宝暦十二年改名護屋路見大図（宝暦12（1762）年）
資料：愛知県図書館デジタルアーカイブより引用。



川上貞奴邸（文化のみち二葉館）
資料：名古屋市のHPより引用。



町並み保全地区の範囲（赤枠内）
資料：名古屋市のHPより引用。

研究方法①

■ 現地調査による緑の把握

2017年10月～12月に現地調査を実施。

調査方法

- ・ 2か所の調査地区（400×80m）を設定。

東エリア：町並み保全地区内（第2種住居地域）

西エリア：保全地区外（近隣商業地域）

- ・ 道路から視認可能な緑を対象に，樹木の位置・分布，樹高，樹種などを目視で把握。
- ・ 調査地点（サイト）ごとにIDを振り，データを整理。位置情報をGoogle map上で記録。
- ・ サイト＝緑をとらえる基本単位。

→緑の現れ方のパターン化を試みる。



調査地点（サイト）の位置



サイト＝道路からとらえられる，物理的に存在する緑のまとめり

研究方法②

■新旧の地図資料を使った時系列的分析

①「町割・地割」「土地利用」の変化を知る

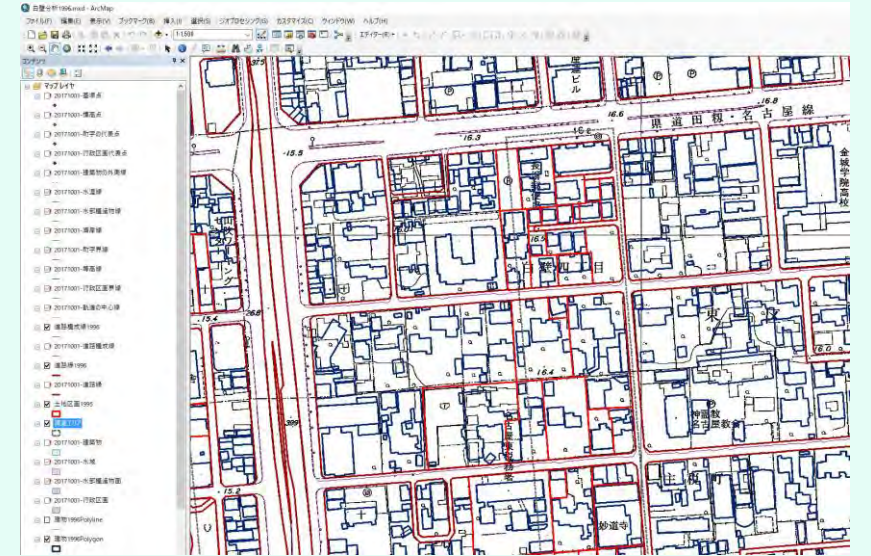
・ Arc GISを活用し、国土地理院の基盤地図情報、名古屋市の都市計画基本図（道路縁，建物）の重ね合わせ。住宅地図（土地利用境界）の援用。

②緑被の変化を知る

・ 国土地理院，名古屋市提供の航空写真から，目視により緑を抽出。

対象年次：1958年，1977年，1996年，2015年

→まちのフレーム（町割・地割）や土地利用の変化と，緑の現れ方の変化の関係性を探る。



ArcGISを活用したベースマップの作成（1996年の例）



調査エリア内の緑被のトレース（2015年の例）

分析結果① 緑の現れ方のパターン化

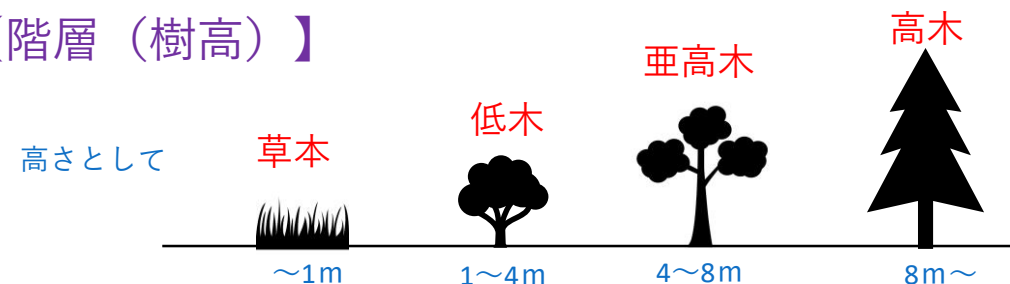
■ パタン化の試み

パタン化のカテゴリ

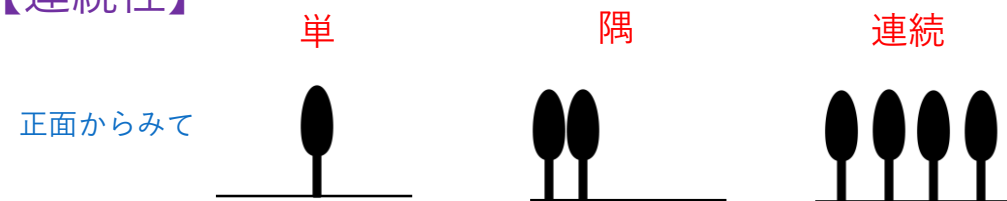
「階層」「連続性」「奥行」「樹種」の4つの要素に注目。

階層	草本	低木	亜高木	高木
連続性	単	隅	連続	—
奥行	縁	中	街路	—
樹種	在来	外来・園芸	—	—

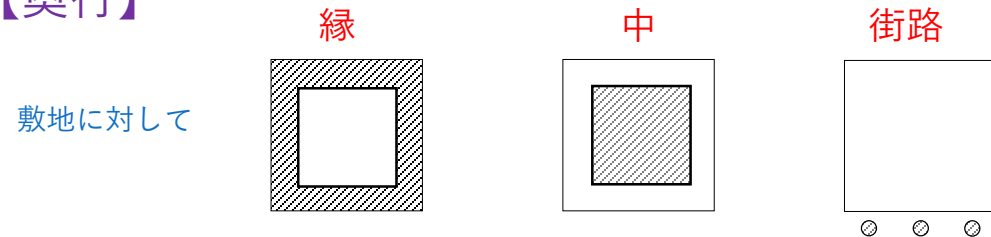
【階層（樹高）】



【連続性】



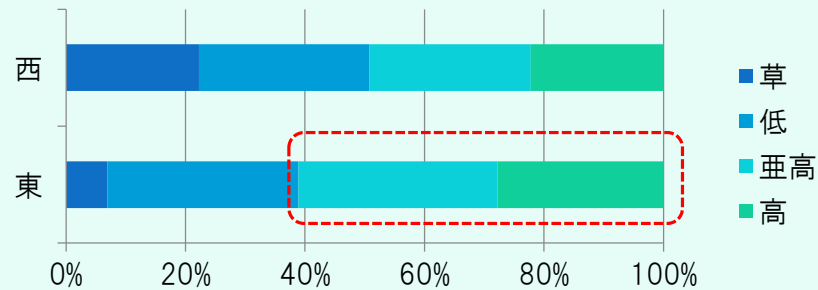
【奥行】



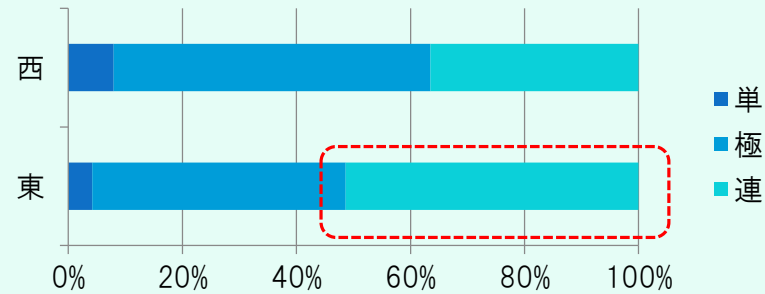
分析結果① 緑の現れ方のパターン化

■ エリアごとの各要素の出現度（サイト割合）

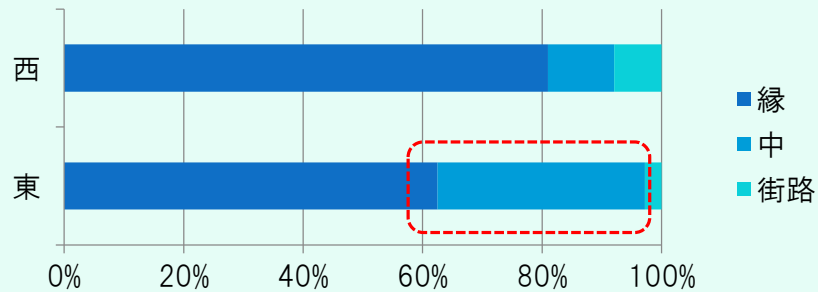
【階層（樹高）】



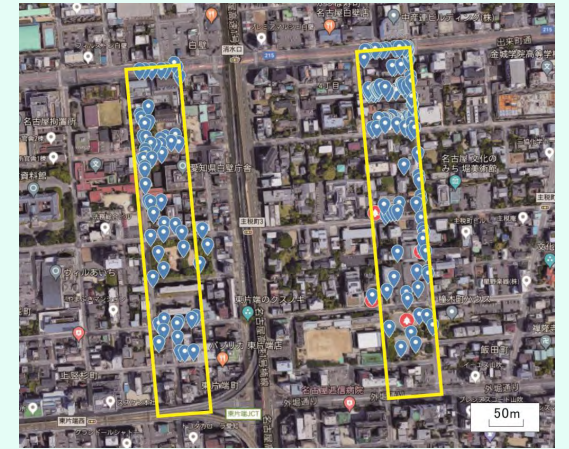
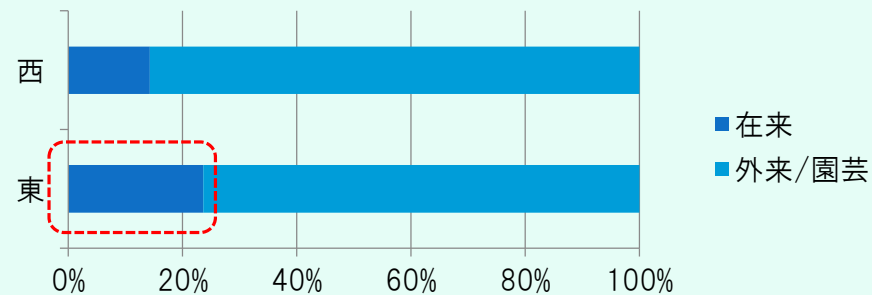
【連続性】



【奥行】



【樹種】



東エリアでは、西エリア
に対して、
亜高木～高木
連続
中
在来
の比率が高い。

分析結果① 緑の現れ方のパターン化

■ 緑被パタンの空間的分布

サイトごとの緑被パターン（「階層」「連続性」「奥行」「樹種」の掛け合わせ）の空間的分布をみる。

→西エリアで22パターン，東エリアで23パターンを抽出。

< 代表的なパターン >

1. 両エリアに共通して多い
2. 西エリアに顕著
3. 東エリアに顕著

ID	階層	奥行	連続性	自生、園芸	在来・外来園芸	タイプ
A1	亜高	中	連	自生優占	在来	10
A6	亜高	中	連	自生優占	在来	10
A10	低	縁	連	自生優占	在来	6
A11	低	縁	極	園芸優占	外来園芸	3
A17	亜高	中	極	自生優占	在来	8
A18	亜高	縁	極	園芸優占	外来園芸	11
A21	亜高	縁	極	自生優占	在来	12
A22	低	縁	極	園芸優占	外来園芸	3
A25	亜高	中	極	園芸優占	外来園芸	7
A31	低	縁	単	園芸優占	外来園芸	4
A32	亜高	中	連	園芸優占	外来園芸	9
A36	亜高	中	連	自生優占	在来	10
A37	亜高	中	連	園芸優占	外来園芸	9
A38	草	縁	極	園芸優占	外来園芸	1
A39	低	縁	連	園芸優占	外来園芸	5

各サイトの緑被パタンの例（一部）

分析結果① 緑の現れ方のパターン化

■ 緑被パターンの空間的分布

① 両エリアに共通して多い

「低・隅・縁・外来／園芸」 (●)



建物の隅・縁
にある植木タイプ

「亜高・隅・縁・外来／園芸」 (●)



★外来・園芸種 (アラカシ, サクラ, キンモクセイなど) の優占



分析結果① 緑の現れ方のパターン化

■ 緑被パタンの空間的分布

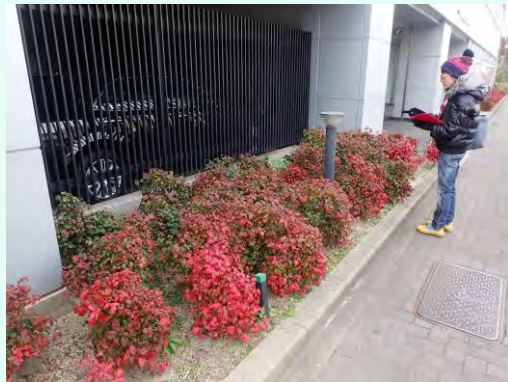
② 西エリアに顕著

「高・連・縁・外来／園芸」 (●)



公園のまとまった緑

「草・隅・縁・外来／園芸」 (●)



マンション軒先の植栽



分析結果① 緑の現れ方のパタン化

■ 緑被パタンの空間的分布

③ 東エリアに顕著

「高・連・中・外来／園芸」 (●)



ボリュームと
まとまりのある
庭木タイプ

「亜高・連・中・在来」 (●)



★在来種（クロガ
ネモチ，エノキ，
クスノキなど）の
優占



分析結果② 緑の現れ方の時系列的分析

■ 緑被率の変化

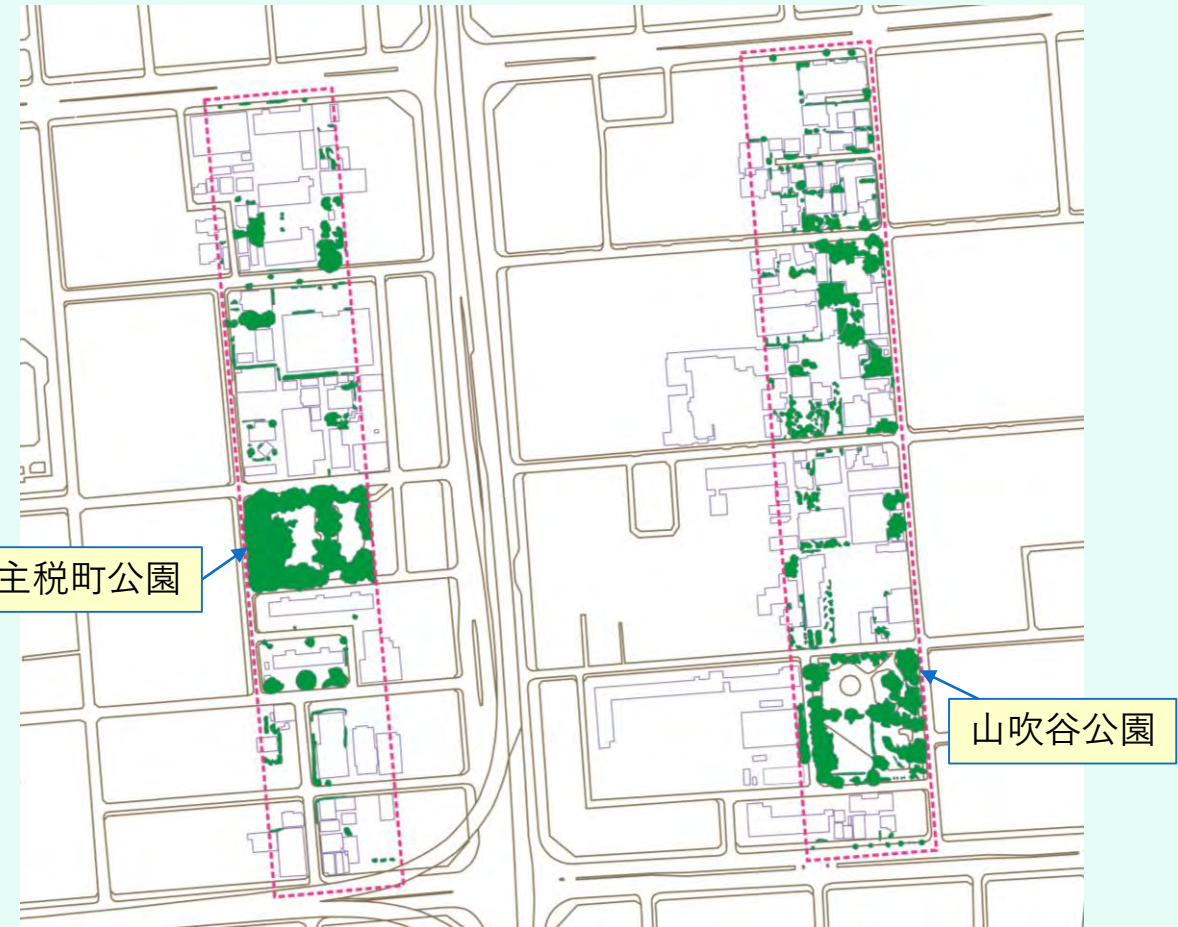
★ 緑被率 = 緑被面積 / 調査エリアの面積

	西	東
1950年	13.7%	20.8%
1976年	15.5%	24.2%
1995年	13.2%	23.3%
2015年	15.1%	18.2%

Cf) 名古屋市の緑被率：22.0% (2015年)

(うち、樹木地は10.7%)

- ・ 第2次世界大戦による空襲 (一部焼失)
- ・ 戦後の復興土地区画整理事業 (道路建設, 区画整理)
- ・ 公園の設置: 主税町公園, 山吹谷公園
- ・ 町並み保全地区の指定 (1985年)
- ・ 近年のマンション, 商業施設 (結婚式場など) の増加



調査エリア内の道路, 建物, 緑被 (2017年)

西エリア

1950年



1976年

主税町公園



1995年



2015年



(緑被率)

13.7%

15.5%

13.2%

15.1%

東エリア

1950年

1976年

1995年

2015年

白壁町筋

主税町筋

檀木町筋

20.8%

24.2%

23.3%

18.2%

山吹谷公園

(緑被率)



分析結果② 緑の現れ方の時系列的分析

■まとめ

西エリア：

- ・都心に近く，戦後の土地利用変化のスピードが早い→持続性のある緑は，**公的に管理された緑（公園の緑）**のみ。
- ・民家の庭先にあった，小規模な緑は減少。
- ・マンション，事業所ビルの立地→建物の隅や縁を飾る，**造園的な緑**の微増。

東エリア：

- ・1990年代頃までは安定的な土地利用，**広大な屋敷地の緑**の持続。
- ・近年の不動産開発による，庭の「すきま化」。
- ・町並み保全地区を意識し，**新たに添えられる緑**。



マンションに追い詰められる緑



ファサードを飾る新たな緑

考察

1. 持続性のある空間的パターンをなす緑の立ち現れ方

- ・現在のパターン：「公的に管理された緑（公園）」の他は、
「軒先・敷地の縁にある小さな緑」
「ボリュームとまとまりのある屋敷地の緑」

- ・最も持続性が高いのは、「**屋敷地の緑**」…（亜）高木，連，中，在来or外来園芸
- ・現在の樹高・樹種からの遡及考察：（亜）**高木**，**在来種**の樹木の存在

2. パターンを持続させている要因

① まちに固有の持続的文脈

歴史的フレーム：城下町時代から受け継ぐ町割と地割

② 人々のまち（土地）へのかかわり方

武家地としての場所の歴史の継承：場所性を意識した人々の行為



料亭「か茂免」の庭のモミの高木

ご清聴
ありがとうございました。

